

# 國民學校藝能科音樂の本旨・實際

## 音感教育

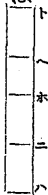
講演筆記

東京高等師範學校教官 井上武士

### 五、和音の訓練

次に和音の訓練ですが、國民學校では「ハ調」の各度上の三和音と五度の七の和音だけをやります。一年生はこの中で一度と、二度、三度、四度、五度をとり、しかも一度はそのまゝ「ハ」と「ミ」をつてゐます。一ウタノホン（C major）、四度のは、「ハ」をオクターブ下げて「ハヘイ」とし、五度のも「ロ、ニ」とミ上二音をオクターブ下げてあります。

一度の和音「ハハト」はハ調にまつて大切な和音で、これをハ調の主和音といひます。「ハハト」は



で上が短三度、下が長三度の形でこれが自然の形です。これを逆にして上を長にし、下を短にするミ不自然になります（ピアノによる）。次に「ハハト」の「ト」を土臺に三和音「トロニ」をつくるミこれも同様の関係になります。これを（上

属和音といひます。次に下の音「ハ」を上にし下属和音「ハラド」をつくるミこれも同様の形態です。この三和音を主要三和音といひます。これはこの三和音がハ調にまつて大切だからです。何故主要かといへばこの三和音によりその調子を決定することが出来るからであります。この三和音中にハ調に属するすべての音が入つてしまふからであります。一年は即ちハ調の主要三和音を選んだのです。何故かといへばこれを徹底させれば七幹音は既に憶へたことになります。故に一年の和音訓練は最も大切だといへるわけです。こゝから、國民學校前の幼稚園が如何にすべきかも考へることが出来るように思ひます。

二年ではⅡ、Ⅲ、Ⅵ度を入れ—うたのほん下46頁—三年ではⅦ、Ⅴをやります。主要三和音に對し、副次三和音といひます。

かういふ和音をつかつて國民學校ではこんなことをやるのか、さういふのを和音訓練といふかを次にお話しませう。

(イ) 聽音 先づ聽音です。四月はその準備期であります。それは音に注意させることです。これは幼稚園でも注意してもらはねばならぬ。

聽く態度をつくる事が第一、聽き得ることは第二であります。一年では先づ二音を出し、どちらが高いかをきかせ、二音をだん／＼近づけてゆくのです。判らなくても判らうと思つて注意して聽くといふ態度の訓練が大切なのです。かうして五月には、ハホト「音を出します。「ハホト」はいはせなくても聽えたといふ表現(例へば立つ動作又は赤いカードを出させる等)をさせるのです。この場合たゞ一音としてきかせる事が大切で、ハミホミトミわけてきかせてはならぬし、又外の音をきかせてはいけません。一ヶ月間この「ハホト」二音のみをきかせます。子供がわかりよくて、先生がよく見えるやうな形をこるのがよいのです。決してあせつてはいけません。私は六月一杯かゝつて、二和音をやり、二音の區別がつくやうになつたら、七月に次の第三和音に入ることにしてゐます。これらの音は耳で直感的に區別するので頭するものではありません。これを一學期にやりま

す。それ以前の教育を幼稚園でやつてもらひたいのです。幼稚園で三和音をやるのは最高です。眼によつて頭で分解

して區別するのでなく耳でするのが大切なのです。更にすゝむ。

(ロ) 音名と結合。(九月) 音をきゝわかるやうになる。この音はこの音なのだき書いてみせます。即ち視唱と和音訓練とが結合されるわけです。かうして「ハホト」を答へさせるやうにするのです。これは同時に和音の書取にすゝむのです。ウタノホン表紙の裏の五線土におはじき等でおいてみせるのもよいでせう。かうして「ハヘイ」「ロニト」の書取にも進みます。

(ハ) 分散和音唱(十月頃) これは例へば「ハホト」をハミホミトの個々の音に分つて唱ふのです。これは歌唱の音程訓練、音高の記憶等にも導かれます。かうして十一月に「ハヘイ」の、十二月に「ロニト」の分散和音唱を行います。

(ニ) 單音抽出唱(第三學期) 第四段階として和音からその中の一音をぬき出してうたふことをします。

一年としては以上の四つが大切であります。この外出来れば和音合唱をやりま

す。歌唱、視唱、和音訓練の三本立はやがて集り、和音記憶、幹音の音高記憶といふ線に向つてゐるわけであります。

## 六、和音訓練の實際

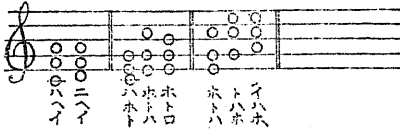
聽音 ハホト、ハヘイ、ロニト、

分散和音唱の練習

單音抽出唱の練習  
和音合唱の練習

出来れば三月末にはハホトの和音合唱をしてもらひたいのです。

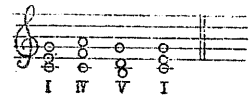
一年生ではこれらのごきをするのですが、二年になると更に「ニヘイ、ホトロ、イハホ」を教へます。「ニヘイ」は「ハヘイ」の「ハ」が半音上つてゐるごきをきゝわけさせ「ニヘイ」を教へてもよいのです。「ホトロ」は「ハホト」から「ホト」



「ハ」、更に「ホトロ」を教へ、同様に「イハホ」は「ホトハ」から「ホトハ」から「トハホ」、更に「イハホ」を導けばわかりやすいでせう。(圖示)

さうして、分散和音唱、單音抽出唱をすゝむのです。一和音を大體二ヶ月位かゝつてやります。如何に慎重にするかをおわかりでせう。したがつて幼稚園ではあせらず、子供に無理なごきを要求せぬやうに、そして子供を神經質にしないやうにする事が大切であります。

更に三年以上のごきを少し話します



ですが、更に終止型合唱を練習します。これは直接、合唱に結びつくもので和音をつなげたものです。これは合唱曲の部分に他ならないのです。教科書には、三年の三學期から三部輪唱曲、三部合唱曲が一つづつ出て來ます。四年には五つ位あります。かうして和音訓練が音楽に結びつくのです。

四年には更にト調の曲があり、嬰へ音いふ派生音及びへ調の變ロミいふ二音が新しく出て來ます。(圖示)五年に

は嬰へ音、六年では變ホ音いふ派生音が出る。要するに、一年から六年までに七幹音と四派生音しか扱はないのです。

七、幼稚園の音楽教育に對して

以上で國民學校の音楽教育の大體のねらひごころごその實際をお話したわけです。これから推して幼稚園でのやり方もお察しがつかれたごきと思ひますが御參考までに私の想像を申し上げてみませう。幼稚園は保育であります。

教育でもなく、教授でもなく、特に保育といふ名を以てよばれてゐます。この點をよく考へて、子供の心身發達に副はしむべくやつていたゞきたいのであります。

歌唱は子供の生活の中で重要なごきであります。したが

つてどんな歌を選ぶかは重要な事柄です。それは國民學校の教材でもよいのですが、もつみやさしいものを選ぶべきであります。今迄の幼稚園の歌は難しすぎました。易しいもの、音域のせまいものを選ぶべきです。一年生の音域は



シからシまでです。幼兒に無理のない音域をえらぶべきで、廣くとも一年生位の音域といふ事を大體頭に入れておいていたゞきたいものであります。なほ、一年から三年まで幹音のみでやるのですから、幼稚園でも當然、派生音を使はぬものをえらぶ事が大切であります。

あまり簡單な曲だゞ先生や親が満足しないといふ傾向があります。これは子供に不親切なことです。なほ、發聲、發音にも注意することです。子供に大きな聲で歌はせるのは無理な要求で、子供の話聲から發展した小さい聲が普通なのです。發音も悪いのを正すこと、「ヒ」「シ」「エ」「イ」等、又は、國民學校の發音型を考慮すること等が大切です。

次に遊戯の問題ですが、これは音楽との關係が頗る密接であります。遊戯をする事により音楽を體得したり、表現したりすることも考へねばなりません。従つて音楽を理解した人の振付けでなければなりません。遊戯をやることにより、音楽を一層體得するやうに選び、且指導するやうに

願ひたいものです。

また音楽の強拍と左足とがあはねばならぬといふことも考慮にいれていたゞきたい。つまり體のリズムと音楽のリズムとがあはなければいけないのです。音楽に強拍、弱拍がなければ生命のないものになります。では左足が何故強いかといひますと、人間は手は右利き、足は左利きなのです。ですから行進曲の一拍に左足をあはせる事なごも考へるべきで、これは遊戯の行進の時、又振付の時等に考へるべきことだと思ひます。

次に聽覺訓練に大切なことは和音を憶へさせたり、遊戯をこれに組み込んだりすることなく、音に對する感覺の陶冶であります。知識の問題は後でも出來ますが、感覺の陶冶は幼い時からやつてもらひたいものです。我國で藝事は六歳の六月六日に始めねばならぬといふのは一理あることであります。指の筋肉、耳の感覺の訓練は是非幼時からせねばなりません。音をきくこと、區別すること等の訓練を、幼稚園の先生方に望みます。

家庭に音楽が入つてゐることは非常に大切なことです。その意味でピアノ、ラジオ、レコード等の音に親しませることが大切です。音程も大切です。最初の音を正しく出してやつてそれにあはさせればよいと思ひます。

(質問) 派生音を音名でよむ時にはどうよめばよいのです

か。

(答) それは目下文部省で研究中であります。今のところ、例へば嬰へ音なら、ゆつくりしたものは嬰をつけてうたひ、速いものには、それが嬰へであるこゝを理解させて唱はせてゐますが將來のこゝはわかりません。いろいろ意見が出てゐますが、子供に音高記憶がはつきり出来てゐれば心配するこゝはありません。音高記憶がはつきり出来てゐればすぐききわける筈です。

### 八、日本音階について

それでは、國民學校の音樂教材にどんな日本音樂の節が出てゐるか、次に日本音階について簡單にお話しませう。

日本音階には雅樂の音階と俗樂の音階とがあります。雅樂は支那から渡來したもので貴族の間に傳へられ主として宮中や神前音樂等に殘つてゐます。呂音階と律音階とあり、律音階は四年生位から出て來ます。俗樂は民衆の間に發達したもので陰音階(都節)——二年の「サクラ」「ウサギ」「陽音階(田舎節)——一年の「タヤケコヤケ」「カクレンボ」「ホタル」「タキギヒロヒ」「オ正月」等多く出て來ます。俗樂の音階が子供と關係が多いので上級になるに律音階が出て來てゐます。(了)

文責在記者

### 【新刊紹介】

國民學校  
と家庭

### お話の實例と其の指導

石井庄司、櫻葉勇 著

童話の研究に深い造詣をもつて居られる、恩師石井庄司先生が此の度、斯の道の協力者、櫻葉勇氏と共著にて「國民學校と家庭」の實例と題されて居ります。此は、國民學校と家庭と題されて居ります。この例言に、「本書は家庭・幼稚園・國民學校のお話の實際的指導書として著したものである」と書かれてある様に、私共保母としても必讀すべき書と思ひます。此まで、お話の本は數多く世にあり、又續々出されて居りますが、其の指導書と申すべきもの、適切なものは要望されてゐる割合に少かつた様であります。本書は正に、其の要求を充分に充すものであります。本書は、前篇と後篇に分れ、前篇には、理論、指導が書かれてあり、童話の本質、本領、在來の童話の批判、新しい國民童話のあるべき姿等を、豊富な實例により、指摘し、示唆し、説明して餘す所がありません。然も、極めて簡潔な、奥深い、洗練された内容により、童話學の深さ、廣さを強く讀者に印象するものと思はれます。後篇には、お話の實例三十篇が收められてありますが、之は幼兒、國民學校一二年むきのもので、全篇悉く、日本の子供の爲の童話であります。日本人としての道徳、子供の世界に即して、よく消化し吸収せられる様にその周到なる意圖のもとに選ばれてあります。殊に、かういふ時局に際して、子供に語り聴かせたいお話の良い實例であり、かうした種類のお話の行き方を暗示してゐるものであります。要するに、前篇、後篇共に机上の創作ではなく、兩先生の長い間の御體験の賜である事に感銘深く有意義なものであるので、此の書により藝術の一分野としての童話に對する認識が深くなり、子供達の心の糧である童話の研究發展に寄與する所が多であると思ひます。(安村)